

第 23 号

2017 年 12 月 8 日

(平成 29 年 12 月 8 日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人

奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人

奈良まほろばソムリエの会

広報グループ

〒630-8001

奈良市法華寺町 254-1

株式会社奈良ロイヤルホテル内

文化・芸術の秋、ガイドに講演に、縦横無尽の大活躍！

10 月 8 日（日）当会は天理参考館の特別展見学と、田辺征夫氏（奈良文化財研究所前所長）による講演会「創建法隆寺は焼失したか」（記紀万葉シリーズ第 8 回）を開催、講演会には 147 人（うち一般 31 人）が参加。

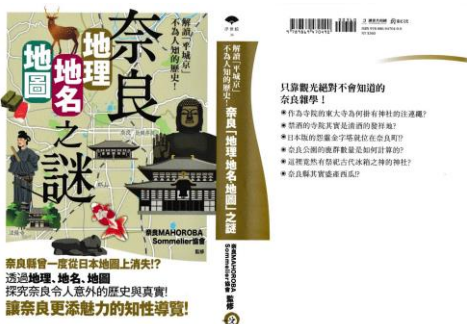
年明けには「奈良まほろばかるた」も完成する予定です。

当会の最近の取り組みを紹介します。（専務理事 鉄田憲男）



田辺征夫氏の講演（10/8）

本年 6 月、謎本の台湾語版が刊行
当会が監修して 2014 年 2 月に
発刊された『奈良「地理・地名・地
図」の謎』の台湾語版が本年 6 月に
刊行。当会名は「奈良 MAHORоба
Sommelier 協会」と紹介されてい
ます。東京、大阪、京都版も出て
おり、これで台湾からの観光客を
お迎えする体制が整いました。



台湾語版のカバー

年明けに「奈良まほろばかるた」

啓発グループが「奈良まほろばかるた」を制作、2018 年 1 月に完成予定です（詳細は P3～P5）。



ご当地検定最上級者ら制作

歴史や文化引き継いで
毎日常新聞奈良版（11/8 付）

完成後、当会では記者発表も予定
していますが、それに先立ち、趣旨や
これまでの経緯が、毎日常新聞に大き
く紹介されました。

公民館講座で山添村を紹介



奈良をもっと楽しむ講座（11/10）

11 月 10 日（金）、講演・講座グル
ープの「奈良をもっと楽しむ講座」（奈
良市中部公民館）で、新入会員で山添
村を中心に活動する音楽家・画家の藤
井哲子さんが「“感じる” 大和高原
山添村」として村を紹介。片平あかね
の品評会を兼ねた祭の話もあり、皆さ
ん熱心に聞き入っておられました。

春日大社で、初の現地勉強会



春日大社・若宮社前で（11/18）

当会は毎月 1 回（1 テーマ 3 回）の
自主勉強会を開催しています（担当＝
啓発グループ）。本年 10 月～12 月は、
初めての試みとして開催場所を春日
大社に移し、権禰宜の千鳥祐兼さんのお話を伺いました。講話後は境内を見学・参拝し、現地ならではの貴重なエピソードなどを拝聴しました。

奈良検定講座に続々と講師を派遣

今年も奈良検定関連の講座にたく
さんの講師を派遣しました。奈良商工
会議所主催の「体験学習プログラム」
に 4 回、「認定支援セミナー」（2 級受
験者向け）に 1 回。クラブツーリズム
の対策講座に 3 回、ほか公民館講座
やフェニックス学び隊（奈良フェニッ
クス大学卒業生有志の会）などなど。
新人講師も育ってきています。ぜひ
このようなアウトプットの機会をと
らえてガイドや講師のノウハウを身
につけてください。



2 級認定支援セミナー（11/26）

シリーズ「奈良県の鉄道遺産」

“王寺は鉄道遺産の宝庫”

奈良盆地西部に位置する「王寺」はいわゆる「鉄道の要衝」であり、JR3方面、近鉄2方面、合わせて5方面へ線路が伸びています。

最初に開通したのは1890年(明治23年)の大阪鉄道(今のJR)奈良―王寺間、その後順次開通し、1922年(大正11年)の信貴生駒電気鉄道(今の近鉄)生駒方面の開業で、5路線がそろいました。

このような古い鉄道の歴史を持つ「王寺」には今も様々な鉄道遺産が残ります。

ひとつ目はJRの奈良方面行1番ホームの柱、今では少なくなった古レールを流用したものが待合室周辺に残っています。

白く厚く塗装されていますが、注意してみると鑄出された文字が読み取れ、中には製造された年

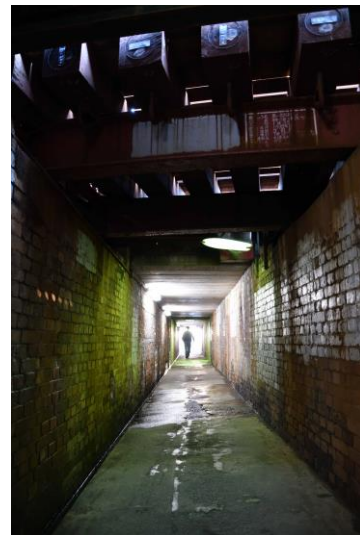
を表す「1890」の文字も。開業当初に作られたレールが本来の役目を終えた後、100年以上たった今もホームの屋根を支えます。他にも「BARROW STEEL」という、このレールを製造したイギリスの製鉄会社の文字なども見えます。



1番ホームの柱

もう一つは、JR構内の三郷寄りをくぐる地下道。電車に乗っているとわかりませんが多くの線路で隔てられた駅の南北をつなぎ、頻繁に二輪車と人が通ります。側面は歴史を感じる重厚なレン

ガ造り。上を通る線路を支える鉄骨は長さたった1.98mですが立派に「橋りょう」(鉄橋)の表示があります。



地下道

また駅北側の「りーべる王寺」の5階には昔なつかしい王寺駅の写真も展示されています。是非一度訪れてみてください。

(小林 誠一)

シリーズ「うまいもん奈良」

神籬(ひもろぎ)



今回は寒い冬に体の中から温まる、明日香に古くから伝わる郷土料理をご紹介します。

かつて、飛鳥の都の運河だったという小川の脇に建つ神籬は、厳かな雰囲気漂う飛鳥坐神社の目の前にあります。お勧めは飛鳥御膳。縁高に彩り良く盛られた素

朴で優しい味のお煮しめと、飛鳥鍋が付きます。



明日香産の地野菜と強い旨味が特徴の地鶏、大和肉鶏を割り下でじっくりと煮込んで、最初はすき焼き風にさせていただき、そのあとたっぷりの牛乳を注ぎ込みます。締めうどんを入れて、幾通りもの味が楽しめます。飛鳥時代、

唐から来た僧侶が作ったヤギ乳の鍋がそのルーツ。

1月はお煮しめがお正月仕様に変わります。季節ごとの明日香の恵みの旬菜に出会えるのも魅力ですね。

食事は11時30分～14時まで。14時からは甘味処として、ぜんざいも冬の人気メニューの一つです。推古天皇の時代に生まれた古代の味を求めて明日香散策に出かけてみませんか。

奈良県高市郡明日香村飛鳥 614

電話 0744-54-2646

定休日 毎週水曜日・第3火曜日

(道崎 美幸)

「奈良まほろばかるた」いよいよ完成へ

啓発グループは奈良の子供たちに奈良の歴史・文化に親しんでもらい、併せて全国に誇れる日本一、日本初などを知ってもらうため「奈良まほろばかるた」を制作中です。

完成は来年1月を予定しています。グループでは県内の小学生などにこの“かるた”を楽しんでもらうことから始め、将来的には県内で小学生かるた大会を定着させたい、と大きな夢を描いています。

◆制作の経緯

啓発Gの米谷潔さん(大阪市在住)が2015年6月に啓発Gリーダーの大山恵功理事にかるたの制作を提案したのが発端です。

2016年10月、啓発Gで子供支援活動としてかるた制作を決定。以降、グループメンバー12人で米谷さん作成の文案を基に、各自の案も出して検討を進めました。

読み札の裏にそれぞれの読み札の理解を助ける解説文も付けることになり、こちらも米谷さんが奈良検定の公式テキストブックを基に原案を作成。文案、解説文案の検討を並行して進めました。

かるたの重要な要素となる絵札は絵本作家、なかじまゆたか(中島豊)さん=樫原市在住=に2017年2月に依頼し、快諾を得ました。

検討会を重ねた末、かるた文、解説文が9月までに完成。なかじまさん制作の絵札44枚も9月に出来上がりました。10月から印

刷業者で具体的な制作作業が進められています。

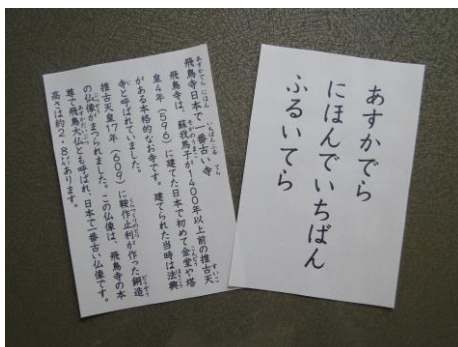
◆米谷さんの思い

「奈良は日本文化の発祥地として良い所、良いものがたくさんあります。しかし、その良さが子供たちに必ずしも理解されているとは思われません」と米谷さん。

奈良女子大教授だった数学者、岡潔の随筆「奈良の良さ」に触発されたとのこと。

そこで考えたのが“かるた”。米谷さんは「覚えやすい短い文のかるたにして、子供の頃から親しんでもらうことで、奈良の良さを自ずと理解してもらえんと思います」と言います。

◆かるたの体裁



【あ】の読み札(右)と、その裏の解説文

絵札(取り札)、読み札は各44枚。【あ】の「飛鳥寺日本で一番古い寺」では、絵札は飛鳥寺と飛鳥大仏が優美に描かれ、右上には「あ」が入り、読み札はかるた文がひらがなで原則3行で書かれ、裏に解説文が記されています。

かるたは奈良らしいデザインの特製厚紙の箱に入れられます。

◆予約と引き渡し

天理市で10月に開かれたソム

リエ大会から予約受付を始めました。予約希望の方はソムリエのホームページの「お知らせ(会員向け)」にアップされている「奈良まほろばかるた予約受付開始」のチラシをお読みいただき、FAXまたは啓発Gのメンバーへお申込ください。

かるたの引き渡しは2018年2月12日(月・祝)に奈良市の奈良ロイヤルホテルで開かれるソムリエの会の新春交歓会などで行います。

奈良の誇り・文化を末永く

「奈良まほろばかるた」2018年1月に完成!
~10月8日、ソムリエ大会から予約受付開始~

【NPO法人奈良まほろばソムリエの会】の啓発グループは「奈良まほろばかるた」を制作中です。完成は2018年1月の予定です。

県内の子供たちに奈良の歴史・文化に親しんでもらい、全国に誇れる日本一などを知ってもらうことを目指します。読み札の裏にはかるたの解説文を付け、遊戯を広く、深く学ぶことができます。

かるたは絵札・読み札それぞれ44枚、箱入り。1セット1200円は寄付金としていただきます。

■予約受付 10月8日(日)から開始。1人2セットはもともと。このチラシを添付し、郵送に必要事項を記入し、①申し込み欄を切り取って啓発グループへ提出していただく。②このチラシのままだソムリエの会専用FAX(0742-96-1414)に返信してください。

■引き渡し 2018年2月12日(月・祝)に奈良市内で開催されるソムリエの会(新春交歓会)で頒布されます。1セット1200円は寄付金として頒布されますのでご協力をお願いします。

■経費の対応 予約受付は無料。ソムリエの会の所属グループごとの例会などで引き渡し・交付金を受け取りを行う。2018年度例会などでも同様に実施します。郵送料は別途対応いたしません。

☆絵札は奈良市内在住の絵本作家、なかじまゆたかさんの作品です。

※取り置き 予約取り置きは、お申し込みのみに使われます。

＜申し込み欄＞

【氏名】 _____ 【電話番号】 _____

【所属グループ(なしの場合は「なし」で)】 _____ 【かるた受取セット数】 _____

ソムリエの会 HP 内のチラシ

今回のかるたの制作費の一部は奈良県地域貢献サポート資金からの補助を得て、小学校等への無償配布やかるた大会の開催により奈良の歴史への理解を深めてもらう予定です。

資金の不足分は皆さんの寄付金によるご協力を得て完成させる予定です。

引き渡しの際は1セット1200円の寄付金と引換にお渡しいたしますので、よろしくお願いします。

(啓発グループ・久門たつお)

「奈良まほろばかりた」絵札 あ〜と

飛鳥寺
日本で一番古い寺



一年の半分雨の
大台ヶ原



海のない奈良で生まれた
柿の葉寿司



役行者奈良御所
生まれの修験僧



雄岳と雌岳
大津皇子が眠る二上山



蛙飛び行事
世界遺産の金峯山寺



巨大な弥生時代の
唐古・鍵遺跡



空海が伝えたという
大和茶



蹴鞠行事
鎌足祀る談山神社



興福寺五重塔を映す
猿沢池



最古の歴史書
古事記の編者太安万侶



初代神武天皇祀る
橿原神宮



西瓜の種
奈良が生産日本一



世界最古の木造建築
法隆寺



蘇我馬子の墓と伝わる
石舞台



高山は
茶釜の生産日本一



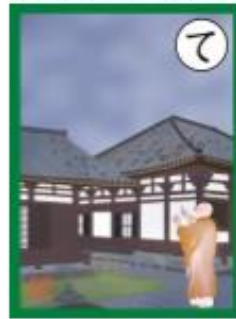
中将姫ゆかりの
當麻寺と石光寺



築地塀
四方をめぐる平城宮



寺の屋根瓦
行基葺きの元興寺



唐の僧鑑真建てた
唐招提寺



☆なかじまさん「現地に足運ぶ」

絵札をグラフィック絵画で描いたなかじまさんは「構想を練って参考になる観光パンフレットを収集。しかし、実際に描く段階になると可能な限り現地に足を運んで景観や雰囲気をつかむことを心掛けました」と振り返ります。

現地に行き図柄が変わった例として『れ』の三輪そうめんでは、軽トラックは作業に欠かせません、と業者の方から聞いて描きました」と言い、『せ』の法隆寺は昼ではなく、あえて夜を描くことで、こういう法隆寺もあるんだなとイメージを膨らませていただければ」と話しています。

絵札 な～わ

奈良の鹿
春日大社の神のお使い



二月堂
春を告げるお水取り



額田王めぐる争い
大和三山



年号は
大化で始まる日本国



能楽の始まり
大和猿楽四座



花の長谷寺
舞台造りと登廊



卑弥呼の墓とも
いわれる箸墓古墳



藤原京
日本初の本格都城



壁画で知られる
高松塚とキトラ古墳



法華寺は
光明皇后ゆかりの尼寺



万葉集奈良生まれの
最古の歌集



三輪山は
大神神社のご神体



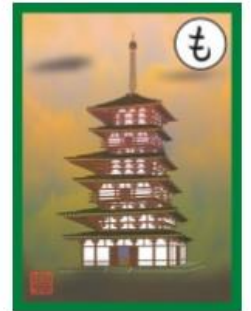
室生寺は
女人高野のたたずまい



めらめらと炎が走る
若草山焼き



裳階あり六重に見える
薬師寺東塔



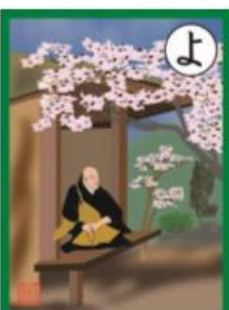
大和は国のまほろばと
うたった倭建命



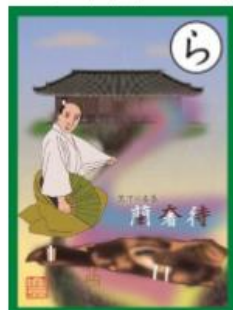
油煙墨
すすを固めた奈良の墨



吉野山
桜の名所と西行法師



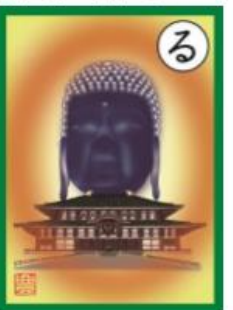
蘭奢待
天下の名香収める正倉院



両手で廻し飲みする
西大寺大茶盛



盧舎那仏は
東大寺の大仏さん



冷気に晒して作る
三輪そうめん



ロマンある最古の古道
山の辺の道



若宮おん祭
生きた日本の芸能史



文：啓発グループ
絵：なかじまゆたか

夏休み家族体験教室

女性 G、啓発 G が初のコラボ企画 ～2017 年夏、親子対象に～

女性グループ（ソムリエンヌ）と啓発グループは初のコラボ企画として今夏、「夏休み家族体験教室 2017」を奈良、橿原両市で計 3 日開催しました。親子が楽しみながら取り組めるイベントを目指し、女性 G は古墳・土器、啓発 G はかるた・すごろくを柱に実施。運営では主催グループにもう一方のグループが応援、コラボ効果を発揮しました。

女性 G は、7 月 30 日と 8 月 19 日に、「歴史に憩う橿原市博物館」との共催で小学生を対象にした夏休みイベント「古墳と土器でドキドキワクワク体験」を開催しました。



暑さに負けず新沢千塚古墳群を散策

参加者は 2 日間で合計 37 名。ローテーション式に各チームに分かれ、【見学チーム】は新沢千塚古墳群の散策、【学ぶチーム】は学芸員より博物館展示物の解説を受けながらの見学、【体験チーム】は橿原市内遺跡から出土した土器片を使って組み合わせる土器パズルに挑戦しました。土器の色や形、厚さをよく観察しながら完成を目指し大人も子供も熱くなります。

土器片がくっついた時は大きな歓声と拍手が上がりました。参加記念として、女性 G オリジナルの参加証をプレゼントしました。



くっついた！
将来有望な学芸員の誕生！？
(女性 G・道崎 美幸)

製作すごろくで笑顔！

啓発 G 主催の「奈良市歴史かるた・すごろく製作」＝奈良市教育委員会後援＝は 8 月 6 日、奈良市学園前の市西部公民館で親子ら 8 組 16 人が参加して開かれました。



製作した作品を使い
歓声が上がった「すごろく大会」

すごろく作りに挑戦したのは小学 1 年～3 年の 5 組。私たちが用意した牛乳パックなどを元にサイコロを作った後、画用紙にすごろくを描き、「ならのお寺じん社めぐり」などが完成。全員で製作したすごろくを楽しみ、笑い声と拍手が上がっていました。

かるた作りで絵札描く
かるた作りには 4 年～6 年の 3

組が取り組みました。私たちが準備した文字ごとの文案と参考写真を元に色鉛筆で秋篠寺本堂、高山茶釜などの絵札を描き、読み札も記入。最後に 1 人ずつ感想を話しました。



アドバイスを受け、
楽しみながら絵札を描く子供たち
(啓発 G・久門 たつお)

女性 G・道崎美幸リーダーの話

子供を対象に、貴重な体験ができて学びにつながる企画を、今回初めて啓発 G とのコラボで実現することができました。企画、紙芝居づくりなど手探りからのスタートでしたが、子供支援活動を通して、今後の奈良まほろばソムリエの会を次世代へ繋げる小さな一歩となれば幸いです。

啓発 G・大山恵功リーダーの話

今回初めての企画として、ソムリエンヌとのコラボ企画「夏休み子供支援活動」を開催し、次世代を担う子供たちに対し有意義な活動ができたと思います。参加者集めに苦労しましたが、今回の経験を生かし、来年度以降の子供支援活動を進めていきたいと考えています。

歴史探訪グループ活動紹介

「奈良まほろばソムリエ検定試験」のソムリエに合格する重要な要件の一つに「奈良大和路の語り部として県民や観光客にその魅力を伝えることができる」とあります。

「歴史探訪グループ」の探訪を企画する思いも同じで、参加していただく皆さまに、その魅力をどのようにして伝えていこうかとの思いを念頭に置いております。

寺社仏閣や遺跡などを解説する資料は、奈良まほろばソムリエ検定試験のテキストのように概略的なものから、専門的なものまで様々ですが、一様に取り上げられる事柄が断片的なことが多いと感じております。

そこで、私たちのグループでは、訪問先の「内」を考察し、連続する歴史的な視点からその魅力を伝えようと心がけております。



紙の代用となったタラノ木の葉の説明
/ 加藤宣男

2016年7月の例会で、三本松の安産寺と海[かい]神社を訪ねました。その海神社は、海の無い奈良県にある海神を祀る四社のうちの一家です。元の祭神は「善女龍王」で、棟札にも善女龍王と記されておりますが、明治の神仏分離令により、海神の姫 豊玉比売を祭神とし、善女龍王社から海神社に改称されたと縁起にあります。



拝殿と本殿の間にある石塔の胴に「善女龍王」の文字と思われる。微かに「善」の字は読める。

そもそも三本松の海神社は、室生龍穴神社から善女龍王を勧請して祀った伝承を持つ神社です。善女龍王は頗梨采女[はりさいじょ]ともいわれ、牛頭天王[ごずてんのう]（神仏分離令の発令まで京都八坂神社の主祭神、神仏分離令の発令以降はスサノオノミコトと習合）の後です。

ところが、明治政府は伊勢神道系でない牛頭天王を認めなかったため、海神社では、牛頭天王の後である善女龍王から記紀神話の豊玉比売に祭神が代わり、神社名も善女龍王社から海神社に改称したと考えられます。

海神社では、このような解説をさせていただいたと記憶しております。



安産寺にて「子安地蔵」の説明

このように、訪問先の表面的な解説だけに留まらず、歴史探訪グループならではの特色を出して、参加者の皆さんに新しい発見や驚きを感じていただけるウォーキングを目指しております。



大和郡山市 源九郎稲荷にて



大和郡山市 小泉神社にて

2月に王寺から香芝方面、4月に多武峰から飛鳥寺へのウォーキングを企画しております。

2月の例会では明神山山頂からの360度の絶景、4月の例会では談山神社境内に散在する僧房跡の石垣が見所です。奮ってご参加ください。

グループへの入会希望の方は、理事大村 omukun@mopera.net までメールでお申込みください。例会のご案内をメールで送らせていただきます。

また、入会せずにHPを見て参加も歓迎です。

((文) 加藤 宣男

(写真) 小林 誠一)

シリーズ「大和の伝統行事」

◆明日香村の綱掛神事

稲渚地区＝成人の日：2018年は

1月8日（月）

かやのもり

栢森地区＝1月11日（木）



飛鳥川の上に張られた男綱の下で行われる神事

＝明日香村稲渚で2017年1月9日

正月に地域に新しい綱を張り、その年の悪疫の侵入防止、五穀豊

穰、子孫繁栄などを祈る綱掛神事。近畿圏の農村部を中心に行われていますが、飛鳥川の上流部にある明日香村の稲渚、栢森両地区では対になって実施されます。

下流側の稲渚地区では、飛鳥川にかかる県道の神所橋の下で地区の人たちが稲わらで男綱作り。長さ約70mで、その真ん中に高さ約1.2m、直径約30cmの円筒形にしたわら製の陽物（男性器を模したもの）を取り付けます。最後に川の流れの上に陽物がくるよう男綱を兩岸の木に結び付けます。

旧神所橋の祭壇での神事で宮司が祝詞を奏上し、参列者の玉串奉納の後に宮司が米、酒などを川に投げ入れて終わります。

一方、約2km上流の栢森地区では地区の人たちが共同作業所で稲わらで長さ約70mの女綱と、高さ約60cm、直径30cmの円錐形状の陰物（女性器を模したもの）を作ります。この後、地区の住職を先頭に役員が陰物、女綱などを手に行列し、約200m離れた飛鳥川の綱掛場へ移動します。

右岸の高さ1mほどの磐座に女綱などを供えた後、読経。川と県道をまたいで女綱を兩岸の大木に結び、陰物は幅2mほどの川の流れの上に来るようにします。

男綱と女綱の対比が印象的な明日香村の綱掛神事。両地区の人たちの熱意が寒さを吹き飛ばします。

（保存継承G・久門 たつお）

“新春交歓会”開催！

日時：平成30年2月12日（月・祝） 13:30～18:30（予定）

受付：13:00～

会場：奈良ロイヤルホテル

内容：・ミニコンサート 藤井哲子氏（当会員）

・研究発表 世界遺産「大和の参詣道」とスペイン「サンチャゴ・デ・コンポステーラ」を歩く 鈴木英一氏（当会員）

・奈良まほろばかるた大会

みなさんぜひ
ご参加ください

＜編集後記＞

早いもので、今年も残すところあとわずかとなりました。みなさんの1年はいかがでしたか。来年もいい年にしたいですね。ソムリエの風もまだまだ続きますので楽しみにしてください。

（広報G）秋山・大谷・窪田・川邊・小林（誠）・雑賀・沢田・豊田（敏）・永井・中村・廣岡・二上・松森・吉川



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8001 奈良市法華寺町254-1 株式会社奈良ロイヤルホテル内

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPの
QRコード